

令和3年度 さいたま市立大東小学校 学校関係者評価書

さいたま市立大東小学校

学校関係者評価委員長 稲田 正平 (印)

1 学校関係者評価の実施体制

(1) 構成人数 11人(学校評議員、学校関係者評価委員11人)

(2) 実施回数 3回

2 学校関係者評価(学校関係者評価委員&学校評議員の意見等)

- 家庭環境による差が生じやすいICT環境を小学校で充実させていくことは、児童の将来にとって非常に有益と考えられるので、次年度以降も更なる工夫・改善・活用を期待している。
- 雨漏り等の修繕の見込みがあるのかが気になります。教育委員会担当部署への継続的な意思表示(予算要求)をお願いしたい。
- 各アンケートの結果で児童・保護者・教職員の肯定的回答に差がある部分の改善が図れるといいと思う。
- 「算数の学習内容を理解している」の項目で、教職員に「そう思う」が見られないのが気になる。
- タブレットの効果的な活用の工夫をさらに深められるようお願いしたい。
- アンケートの結果から、保護者からどの項目も視覚的高い評価を受けていることがわかる。それだけ保護者からの信頼が厚いことがうかがえる。今後、さらに次の4つのことをしっかりと指導していただきたい。
 - ①個に応じた学習指導の展開を図る。(各教科において一人ひとりに課題を持たせ、解決方法を自ら取り組む手立てを模索させる。更に、互いに教え合うような学習展開の時間を設ける。)
 - ②いじめについては、子どもたちがいつでも担任に相談できるような信頼関係を築く学級経営をする。いじめられやすい子には、常に目を向けるようにする。
 - ③あいさつは何のためにするのか、あいさつを交わすことの意義や気持ちを教える。
 - ④集団生活の中で互いが気持ちよく過ごすために、約束やきまりがあることの意義を教える。これらのことが、将来社会生活を営むための基盤になることをしっかりと教える。
- 学校アンケートで保護者と教職員の回答にギャップが出ているものがある。「大東小学校ホームページ」が今以上にコミュニケーションツールとして活用すれば、より充実したコミュニケーションで認識の差を埋められるのではないかと思います。
- 生活様式の多様化により、「規則正しい」「気持ち良いあいさつ」「人に迷惑をかけない」という基準が変わってきているように思う。保護者や教職員の評価が低いのに対して、子どもたちの評価がそれほど低くないという結果も興味深いと思う。
- 「あいさつ」については、会釈やジェスチャー等多様なあいさつの方法が認知されると子供たちが「あいさつしたくなる環境」になると思う。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- ・1人1台となったタブレットを有効に活用した指導方法の工夫と改善を常に行い、できる喜びやわかった喜びを味わうことのできる授業を行う。
- ・児童の実態把握に努め、しっかりと一人ひとりに向き合った指導を続けていく。
- ・挨拶指導、安全指導の推進に努める。
- ・安全点検にしっかりと取り組み、児童の安全・安心の確保を行う。また、校内の整理整頓と清掃指導の推進に努める。
- ・学校・保護者・地域のコミュニケーションをしっかりととれるようにコミュニティ・スクールを充実させる。

さいたま市立大東小学校 校長 永井 有司